

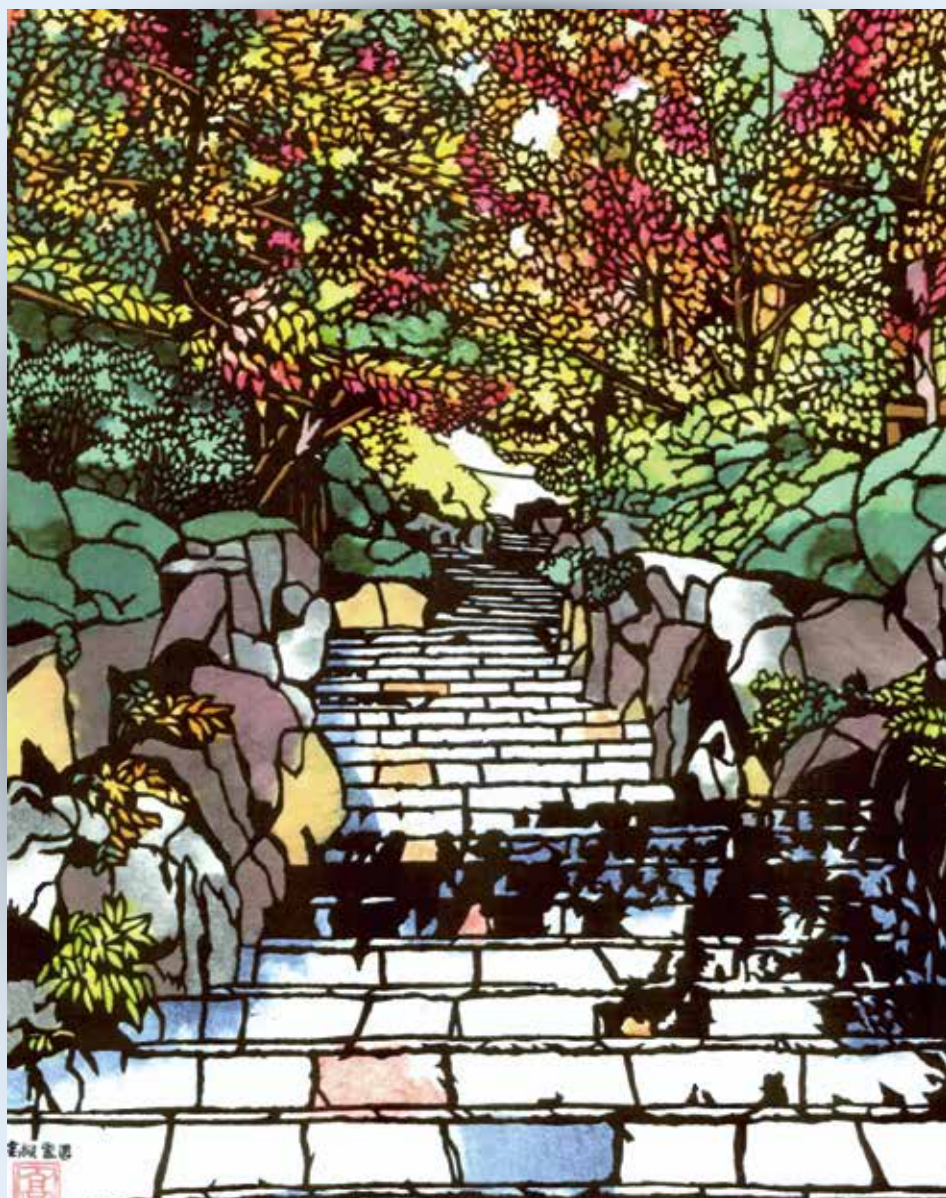
人づくり まちづくり 情報誌

あくていぶ

No.

82

令和7(2025)年
9月発行



わがまちたかつき
切り絵紀行

「天に昇る階段」
(高槻霊園・中畑)

いくち たかよし
切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

戦後80年に想う



「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

☆このひと、
見つけた! ☆

高槻市原爆被害者の会

2024年ノーベル平和賞を、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が受賞したのは、まだ記憶に新しいところです。この受賞について、ノーベル委員会のフリードネス委員長は、「被爆者として知られる広島、長崎の原爆の生存者による草の根運動であり、核兵器のない世界を実現するための努力と、核兵器が二度と使われてはならないことを目撃証言を通して示した功績」と説明されました。

高槻市でも昭和36年に高槻市原爆被害者の会が発足、現在170名が活動されています。会長の^{しゅうとう みちひろ}首藤通治さんはこの活動について「我が国の反核平和運動というものが枯れ果てて、名もなく消え去るのではなく、長く続いた証」と語られています。今回は首藤さんにお話を伺いました。



高槻市原爆被害者の会の皆様
(第39回平和展会場にて。右端が首藤さん)



Q1 活動のきっかけは？

昭和29年、マグロ漁船第五福竜丸がビキニ環礁で水爆実験に遭遇し、死の灰によって被爆。無線長が不帰の人となった「ビキニ事件」で、東京都杉並区の一主婦が起こした原水爆禁止の署名運動が発端となり、やがて全国に伝播しました。



Q2 どんな活動をされていますか？

被爆者に対する法的援護、世界の核兵器廃絶を求めて、今年で64年間、絶えることなく活動を続けています。現在は体調管理、介護サービス対策等々を含む健康管理がメインです。過去には、反核政策、反核運動に対する意見も多く、国会デモ、厚生省デモなどの活動もありました。これらの行動によって現在の被爆者法制があるのだという古老もおられます。

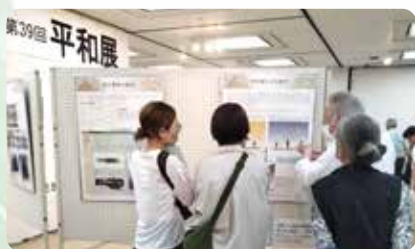
被爆から80年という時間経過で、被爆者の平均年齢が86歳になり、毎年開催の定期総会も出席者が少なくなりました。しかし、それでも尚、意気軒昂です。



Q3 後世に伝えていきたいことは？

核兵器の威力について伝えたい。広島に投下されたウラン型が12キロトンの破壊力がありました。これはTNT火薬で12,000トン。長崎に投下されたプルトニウム型が22キロトン。TNT火薬に換算すれば22,000トンを一度に爆発させたほどのパワーになります。これによって広島では14万人、長崎では7万人が殺されました。昭和29年のビキニ水爆実験は、広島、長崎に投下された原爆より1,000倍の威力があると言われ、平成29年8月6日の広島平和宣言で、松井^{かずみ}一實市長は核兵器の威力を「72年前の数千倍になる」と表現しています。

80年間、核兵器が使用されていない意味をよく考えましょう。次の世も何とか平和が続くことを祈っています。



平和展では語り部として毎年参加し、原爆の恐ろしさを伝え続けています。

第39回 平和展



戦後80年にあたる今年8月7日、8日に平和展を開催しました。

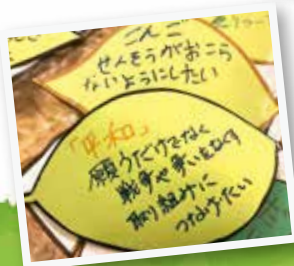
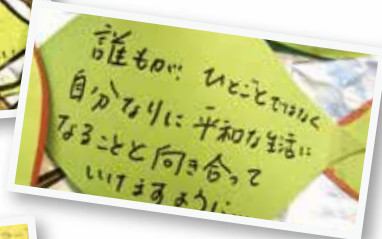
戦争経験者が減少の一途をたどる中、その経験の「記憶」を通して平和を伝えることをテーマに、マンガ家ちばてつやさんの満州引揚体験や、広島の高校生が被爆体験を聞き取り、描いた絵画を展示しました。

また、被爆ギターを修復して演奏するトーク&コンサートを開催し、原爆の恐ろしさ、平和の尊さをお伝えしました。

会場には平和の願いを込めて作成された、たくさんの折り鶴や、メッセージの葉で大きな木が完成しました。様々な思いや願い、希望が詰まった2日間になりました。



平和の木



寄せられた平和の願い、世界中へ届け！



コラム 子ども食堂の原点は

高槻市人権まちづくり協会 人権啓発指導員 藤澤 善富

「いっしょに食べてもいいですか？」孤独のグルメの俳優、松重豊さんが出演する「子ども食堂はあなた食堂」というACジャパンのテレビCMが流れています。「みんなで楽しく食べる」ことで、「誰でも来ていい、みんなの居場所」というメッセージを伝えていきます。名前に「子ども」がついているから、子どもだけの食堂と思っている人がいるかもしれませんが、子ども食堂は、子どもも、おとなも、ひとりでも、家族でも来ていい、みんなの居場所です。2024年度には全国で1万866カ所、大阪府で938カ所、高槻市では11カ所が設置されています。

賀川豊彦さんは1910年に神戸のスラムに身を投じ、「多くの人々の栄養を満たしたい」と「一膳飯 天国屋」を開きました。その精神は子ども食堂に共通するものがあり、子ども食堂の原点は賀川豊彦さんとも言えるのではないのでしょうか。



このまち、見つけた！
あちこち訪問



賀川記念館

賀川豊彦という人をご存知でしょうか。その功績は、日本ではあまり知られていませんが、海外における評価は非常に高いものがあります。ノーベル文学賞候補に2回、ノーベル平和賞候補に4回なっています。最初にノーベル平和賞候補になったのが戦後2年目の1947年です。この時期に敗戦国日本から初のノーベル賞候補を出したということは本当にすごいことです。

今回は阪急電車神戸線、三宮駅を下車。繁華街、ビル群が建ち並び、人も車も多い国道2号線に沿って徒歩15分の所にある「賀川記念館」を訪問しました。

営業時間 午前10時～午後5時（入館午後4時半まで）
定休日 日・月曜日（年末年始など臨時休館あり）
料金 一般 300円 学生 100円（高校生以下無料）
アクセス JR、阪急、阪神、地下鉄三宮の各駅から徒歩15分
阪神バス吾妻通4丁目下車西へ徒歩1分
TEL 078-221-3627

救貧から防貧へ

賀川さんは生涯を社会的弱者とともに生き、闘い続けました。その活動の原点は、神戸のスラム街で貧民救済活動（セツルメント事業）を行ったことにあります。スラム街での生活を地域の人と分かち合いながらも、貧困の根本的な解決には社会の仕組みづくりが必要と痛感しました。



▲ご案内いただいた
（福）イエス団賀川
記念館参事田中重至
（しげのり）さん。

利益よりも 人間尊重の社会を

「人間回復、一人一人を大切に、助け合って幸せになる」ことを目指し、生涯にわたり社会運動に力を注ぎました。日本における運動と名のつくもの、労働運動、農民運動、生活協同組合運動等のほとんどが賀川さんの活動に端を発しています。

低賃金での長時間労働を強いられる労働者が増える中で、労働運動の先頭に立ち、また農民に対しても小作料の適正化、小作契約の正常化をうたいました。どちらの運動にも暴力を否定し、人格を重んじる強い信念を貫きました。戦中、戦後と物資が不足する中、生活を守るためには物質的援助よりも共に支え合うこと

が必要と感じ、現在のコープこうべの前身である「神戸購買組合」及び「灘購買組合」を設立し、終生その発展に尽くしました。これらの功績は、現在の社会にしっかり継承されています。



▲奥の写真が賀川豊彦さん。1888年神戸市で生まれ、4歳で両親を亡くし、徳島にある実家の義理祖母のもとで育ちました。

訪問を終えて…

●のっけから不謹慎だが「賀川豊彦って誰？ 知らんけど」が最初の印象だった。しかし、本日の見学の際「なぜ、私は知らなかったのか」と自責の念にさいなまれた。会館の人に聞くと、神戸市以外の学校の来館はほとんどないそうです。信仰やイデオロギーはどうあれ、これほどまでに過去に残した功績大の人物ならば教科書等に、もっと載っても不思議ではない。世界の評価は高いのに、日本ではそれほど知られていない一因がここにあるのかな…と残念に思う。皆様に彼の存在が是非伝わりますように。

●神戸市の小学校4年生が副読本で賀川さんの功績を学び、記念館を訪れている。子どもたちの感動した直な気持ちのままの感想文は感受性に富み、年齢にかかわらず学ぶ気持ちに感銘を受けた。

●子どもの感想文から（一部抜粋）



賀川さんは「一人は万人のために 万人は一人のために」という言葉通りの生き方をした人だと思います。この言葉を大切に、私も頑張りたいです。



社会で賀川さんの勉強をして「戦争では平和になれない」という考えは間違っていないと思いました。でも、今でも世界では戦争が続いています。賀川さんの考えが世界に伝わって、今も続いている戦争が早く終わってほしいと思います。



それぞれの活動は100年たった今でも少しずつ形を変え、続いていることに驚いた。安い食堂は子ども食堂にかわり、子どもが食事を食べるだけではなく、協力して勉強するスペースに活用され、賀川さんが思い描いた人とのつながりを大切にするという思いは、今と一緒にだと思った。



ぼくたち子どもの手中には未来を良くしていく力があり、賀川さんが本を読んで力をつけたように、僕たちも力を蓄える時なのだと思います。賀川さんの偉大さを学んで自分を磨き、人のために尽力できる人間になっていきたい。



▲作家としても意欲的に活動し、自伝的小説「死線を越えて」は日本初のミリオンセラーとなりました。生涯300冊を超える著作を世に出しましたが、手にした印税（今のお金で約20億円）のほとんどを事業に投じました。



▲「多くの人々を安価で栄養を満たしたい」と開いた「一膳飯 天国屋」は3か月で閉店。100年たった2010年に再出発、コミュニティカフェ「天国屋カフェ」として人々が集う場所になりました。



▲館内はデジタルデータなど資料がいっぱい！読みごたえ、見ごたえがありました。



記念講演会

人生100年時代を 楽しむチャレンジ!

入場
無料

講師

わかみや まさこ
若宮 正子 さん

ITエバンジェリスト、エクセルアートの創始者、デ
ジタル庁デジタル社会構想会議構成員

日時

12月13日(土)

午後2時～(開場:午後1時30分)

会場

市立生涯学習センター 2階 多目的ホール

定員

市内在住・通勤・通学の方
要事前申込順300名

申込期間

11月4日(火)～定員に達するまで

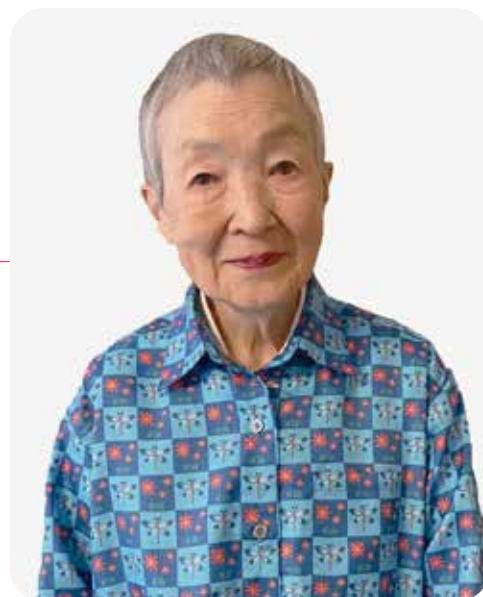
申込方法

窓口・電話・FAX・ホームページから
お名前、ご連絡先を添えて

保育あり

3歳以上未就学児5名まで
要申込

**手話通訳
要約筆記通訳あり**



人権
講演会

「瀬戸内寂聴さんと私 ～共に過ごした10年から～」 を開催



▲講師の瀬尾まなほさん

寂聴さんの晩年の秘書、瀬尾まなほさんを迎え、約300名の観客を前に、寂聴さんの心豊かな言葉や思い出、学びをお伝えいただきました。

寂聴さんから「自分のことばかり考えてはダメ、宇宙と自分、世界と自分、日本と自分をいつも意識しなさい」と言われた思い出をお伝えされました。寂聴さん自身も、高齢で体が思うように動かなくなっても、自分がおかしいと思うことには駆けつけて声を上げ、困っている人の所に飛び込んで柔和な笑顔で励まされてきました。常に人のご縁を大切に、穏やかに諭されるお姿の一方で、若い売れっ子作家に嫉妬する負けず嫌いな一面もお話しされ、人生を心豊かに生ききったお姿が会場に思い浮かぶかのような講演会でした。

参加者の感想

- とても温かい気持ちになれた。
- 生きるのが大変な今、行き詰まったり、悲しい時は寂聴さんの心豊かな言葉を思い出し、頑張っていきます。

人権啓発作品を募集します

21世紀を「人権の世紀」とする取り組みが進められる中で、市民一人ひとりが人権問題を「自分の問題」として捉え、お互いの人権を尊重し合う高槻市を築いていくことを目的に、人権啓発作品を募集します。

- 【募集部門】
- ①作文（読書感想文を含む） ➡ 400字詰め原稿用紙 **4枚以内**。
 - ②標語 ➡ 形式・長さは自由。
 - ③絵画（ポスターを含む） ➡ 手書き：用紙サイズは画用紙 **4つ切以下**。
パソコン：用紙サイズは **A2サイズ以下**。

【応募資格】 市内に在住または通勤・通学・通園する人

【主なテーマ】 **人権や平和にかかわるテーマであれば可**

【募集期間】 ~10月10日(金)必着

【応募方法】 応募作品は応募票（名前、住所、連絡先、応募部門、作品名を記入）を添付のうえ、郵送または、直接お持ちください。
詳しくはホームページ・ポスター等をご覧ください。

【応募・問合せ先】 高槻市人権まちづくり協会
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階
電話：072-647-7825／ファックス：072-647-7233

令和6年度絵画の部 ▶
最優秀賞作品



社員研修でうずらの鵜野飛行場を訪問

兵庫県加西市にある地域活性化拠点「soraかさい」と「鵜野飛行場資料館」へ31名で訪れました。ここには第二次世界大戦時の旧日本海軍の練習航空隊の滑走路や防空壕、機銃座がその姿のまま多く現存しています。



迫力ある紫電改と九七式艦上攻撃機がお出迎え

soraかさいには、戦闘機「紫電改」と、「九七式艦上攻撃機」の実物大模型が、併設された資料館では、現地で集められた膨大な資料が展示されていました。

この地から1945年に神風特別攻撃隊「白鷺隊」が沖縄戦に出撃しました。ガイドさんは「命をかけて日本を守ろうとした人たちの命の重みを感じることで平和の意味を考えて欲しい。人を人として扱われない惨劇を繰り返さないために、しっかり史実を学習してほしい」と伝えられました。

人権連続講座を開催します

参加費
無料

手話
通訳
あり

要約
筆記
あり

第1回

10/3
午後2時～



ウスビ・サコさん 京都精華大学元学長

みんな違ってあたりまえ なんでもやねん・ええやんか

世界を渡り歩いてきたサコさんに、ダイバーシティを目指すヒントや、30年を超える日本生活での失敗と、発見と、希望のお話をユーモアたっぷりにお伝え頂きます。

第2回

10/10
午後2時～



ぬくい えみこ
湯井 恵美子さん (一社)福祉防災コミュニティ協会 福祉防災上級コーチ

一人ひとりのいのちと尊厳をまもる ～みんなで考えるひなん計画～

大地震や台風が多い災害大国ニッポン。多様な人々を地域で支え、いつかではなく今！いざという時に備えましょう。ワークショップで” 防災・人権知識” のアップデートを!!

第3回

10/17
午後2時～



あさだ たろう
浅田 太郎さん 京都府立大学 生命理工情報学部 教授

デジタル社会を安心して生きるために ～SNSと“わたし”の人権～

ネットやSNSが普及し、パソコンやスマホの使用が当たり前になった今、様々なリスクも増えています。気づかぬうちに被害者にも加害者にもならないよう、人権を大切に利用を考えます。

第4回

10/24
午後2時～



さかた よしひさ
坂田 良久さん 世界人権問題研究センター 登録研究員

ジブリで考える人権 ～部落差別って何～

情報化の進んだこの時代に必要な、人権感覚の在り方や部落差別について、ジブリ作品を例に、今の視点で考えていきましょう。

第5回

10/31
午後2時～



ふくなり ふみよ
福成 二三代さん 産業カウンセラー、
アンガーマネジメントハラスメント防止アドバイザー

身近にあるハラスメント ～悪気がなかったではすまされない～

「怒りをぶつける」ことは人間関係だけでなく、自身の身体にも心にも悪影響です。怒りの連鎖をたつきり、みんなが居心地のよい場所づくりを考えます。(ワークショップあり)

■会場 クロスパル高槻(総合市民交流センター)
*JR高槻駅中央出口の南側出てすぐ

第1回: 8階イベントホール
第2回～第5回: 702会議室

■定員 第1回150名
第2回～第5回100名(要事前申込順)

■申込期間 令和7年9月4日(木)～各回定員に達するまで

■申込方法 ①直接来所 ②☎647-7825
(①②は平日午前8時45分～午後5時15分)
③FAX647-7233 ④ホームページから
(③④は毎日24時間受付)

編集後記

某卓球部のある日の会話。「今のノーカンね」「次から右に回ろう」。提案者は数か月前に入部された方々。「あっ、ごめん。新米のくせに、大胆な発言して」に、皆で大笑い。極めつけは、荷台に置いた水筒を取りに行くとの代表に「ついでに、私のも持って来て～」と入部2年目の方。代表の「どんな色や～」には、ズッコケてしまった。イイね。皆さん伸び伸びしてる。それもこれも古株さん達の人間性もあり、とてもありがたい。

中堅の私ときたら、上から抑えつけられることも、下からつき上げられることもなく、卓球は下手でも、満足度98%。「楽しいか」と聞かれたら、すかさず「ピンポーン」と答える。しかも、他に類をみないほど民主的な場所。夫(おっと)! どっこい、まちがえた。他にもあった、ここ「人権まちづくり協会」。あきっぱい私が「人権啓発推進協議会」の頃よりかわって半世紀。広報編集委員で38年。周りがあったかいし、おまけに新しい「出会いや発見」までついてくる。講座や映画会などのイベントもあるので、のぞいてみてね。

編集発行/一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会 (☎647-7825)

「あくていぶ」は協会ホームページからご覧になれます。

<https://www.takatsuki-jinmati.org/> 高槻市人権まちづくり協会 検索

Follow
Me!!



Instagram
takatsuki.jinmati

